ふかまちのまど

第一八四号　〇九年九月一日
発行元　深町町内会連合会
連絡先　☎六三一三八八二

町内会連合会活動報告

盆行事（八月十五日）

町内会連合会
会長　中村　純

今年は朝から小雨、役員は朝八時に集合し、協議の結果、櫓だけ組んで夕方六時に準備すればということで、夕方まで様子をみることにしました。

幸い六時には雨もあがっていましたので、早速準備にかかりました。

定刻七時三十分、新仏（十一名）に黙祷をささげて、太鼓踊りに続き、西本一二三様の口説きで盆踊りに入りました。

最後のビンゴゲームには三二〇名の参加がありました。

役員の皆様、各種団体の方々、最後までご協力大変有り難うございました。

やっさ踊りに参加して

やっさ踊り担当　天木雅之

第三十四回三原やっさ祭りが、八月七日～九日まで三日間、主会場のJR三原駅前で、一〇五チーム、総勢約八〇〇〇人の踊り手が「やっさ、やっさ」の掛声に合わせて元気よく踊りました。

八日（土）のやっさ踊りには、今年もサンライズ大池・港町さんと合同で出場しました。深町町内会連合会からは、男・女・子供を合わせて二十五名が参加しました。

入賞はなりませんでした（昨年は四位入賞）が、温かい沿道の声援に後押ししていただき、踊り手はみんな力一杯頑張り、いい汗をかきました。

参加されたみなさん大変ご苦労様でした。▲▲

深町子どもを守る会

子どもをみんなで守りましょう

深小の子どもは
○午後四時二十分頃下校します。
※日によって、異なることがあります。
○近くで、遠くで、みんなで見守りましょう。
○あいさつ、声かけをしましょう。

歩く会にご参加を

健康づくり推進員
高崎修

行先　因島大橋
期日　九月十九日（土）
行程
八時　上組公民館出発
向島へ（車）
九時～十一時　因島大橋往復（徒歩）
十一時　向島発帰路へ（車）
十二時頃　上組公民館着予定
▲▲

深小だより

子どもと命

深小学校長　山本　惠司

私は、度々、全校児童に問いかけていることがあります。それは、「みんなにとって、一番大切なものは何ですか？」と。すかさず「命です。」と、児童は答えます。

日本では、毎年、六〇〇〇人以上の人が、交通事故で命を落としています。一方で、毎年三〇〇〇人以上の人が自ら命を絶っている現状があります。「生きている」ということは、当たり前のように思いますが、決していたりそうではないという気持ちもいたします。

有村久春の「命を大切にする教育をどう進めるか」という本の一部を紹介します。

生きている実感がないと語る少年達がいる。リストカットをしたり，万引きをしている時だけ生きている実感があると語る少年もいる。命に関する感覚が鈍くなっている子どもたちがいる。

自殺の危険性が高い子どもの背景には，自殺の危険性が高い親がいるという。青少年の自殺行動は，家庭内の混乱と密接に関連している。少年たちは，親から意識的・無意識的に邪魔者扱いをされている。

自分の命を価値ある大切なものと感じられるようになるためには，他者から愛され認められることが必要である。特に，親や教師の態度は重要である。

健全な生死観を発達させ，自分の命の大切さを知り，命を輝かせている子どもたちが，人の命も大切にすることができる。社会から守られて育った子どもたちは，社会を守ることができるだろう。

「ふかまちのまど」　ホームページのアドレスは
http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html

子ども会だより

海水浴・防犯球技大会

子ども会会長　松本雅志

今年度も子ども会行事の一つ海水浴を八月二日に行い、須波海水浴場に総勢五七名参加しました。雨天の多い本年度の夏ですが久し振りに好天に恵まれ、子供たちは氷を食べ、ビンゴゲームで盛り上がり、元気いっぱい泳いで楽しみました。

皆様のご協力のお陰で大きなケガも無く過ごせました。有り難うございました。

又、八月十五日（土）、防犯球技大会が三原運動公園で開かれ、ソフトボール　沼田西－深16対0　で負けてしまいました。結果はご覧の通りですが、取り組む姿勢やお世話をして下さる方々への感謝の気持ちを大切にして、今後の練習に励んでゆく選手たちの応援よろしくお願い致します。

九月十三日（日）、三原市子ども会球技大会（三菱和田沖グランド）に向けて、引き続き（土）（日）の練習予定です。

興味のある子供たち、保護者の皆様方、見学がてら遊びに来てみて下さい。いつも歓迎致しますので、よろしくお願いします。▲▲

波動のおはなし①

下組　寺田　美恵

本年度からふかまちのまどの編集部員に仲間入りさせて頂きました寺田美恵と申します。

決して上手とは言えない文章ですが、こうして掲載して頂く事を嬉しく思います。

私の日頃の興味の対象であり、得意分野でもあります波動のお話をさせて頂きたいと思います。

私達は常日頃、身の周りにある、あらゆるものの波動（エネルギー）に囲まれて生活しているわけですが、生活を彩っている色というものは、非常におもしろいものであります。

今年の春の訪れと同時に、あくまでも私の感じたところではありますが、黄緑色・黄色・赤色のエネルギーを必要に感じておりましたところ、気が付くと辺りは山々の新緑の黄緑で満たされており、地球のサイクル、自然との調和というものに深く感動を覚えました。

（次号へ続く）▲▲

深町各種団体九月行事予定

◆町内会連合会
▼深町敬老会　二一日

◆小学校・幼稚園
▼始業式　一日
▼参観日・修学旅行説明会三日
▼テーマタイム・PTA役員会　四日
▼体重測定㊊　七日
▼諸雑費集金㊊　八日
▼保健指導㊊　九日
▼修学旅行　十～十一日
▼ぴよぴよハウス㊊　十一日
▼子ども教室　十六日
▼避難訓練　十八日
▼社会見学・祖父母参観日㊊二五日
▼クラブ活動・誕生日会㊊三十日

◆如水館中学・高校
▼運動会　十九日
▼中学
インターンシップ①二八日
インターンシップ②二九日
インターンシップ③三十日

展望席

九月は秋分の日を中心にして「動物愛護週間」があり、動物愛護精神の普及等が行われています。動物愛護をとおして生命を尊ぶ心を育んで行こうとするものです。

ところで、日本の昔話やわらべ唄等には、意外と動物を虐待している内容のものがあります。

悪事を働いたタヌキの背中に火をつけたり、泥舟に乗せる「カチカチ山」。糊を食べた雀の舌を切った「舌切雀」のおばあさん。カニをいじめた仕返しに、栗や臼等が猿を徹底的に懲らしめる「サルカニ合戦」。執拗で惨い仕打ちをしています。また、「山寺の和尚さん」ともあろう方が、猫を紙袋に押し込んで、これを毬代わりにポンと蹴って猫を虐待。「歌を忘れたカナリア」は、柳の鞭でぶちましょか。勿論、「浦島太郎」のように動物を可愛がる話もありますが。

人間は、どこかに動物を虐待する心が潜んでいるのかもしれませんが、犬・猫・牛・馬等の家畜はなぜか人間を信じているのか懐いてきます。人間もついつい情が移り、家族と同様に慈しむ心が湧いてくるものです。しかし、犬や猫も甘い顔をしていると、言うことを聞かなくなるようです。

近頃は、野生の動物に野菜や果物が食べられることが非常に多くなりましたが、人間の身勝手な開発等で野山では食べていけないのが原因とか。動物愛護週間はお彼岸の頃でもあります。動物に慈悲の心を持って接し、人間の心の在り方や生き方を動物からも学び、考えてみたいと思います。

パキスタン・カラチに暮らす

第七回

「カラチの音楽事情①」

中組　福島　健作（尾道市立因北小教諭）

パキスタン・カラチの人々は、音楽が大好きです。

ダンスはもともと音楽や歴史であり禁じられてきたというイスラムでは、パキスタンは、もともとイスラムの国のなかで、音楽を大切にしてきた圏内の音楽です。主流はやはりパキスタンの音楽で歌謡曲です。歌手は、西洋系の基本的な音楽とは違って一人で歌います。楽器には和音を使わず、同じ音を複数の人でいっせいに歌います。

流れる音楽は、基本的に一人で歌います。

イギリス映画やインド系の音楽は、歌手の手を使わず、節回しが魅力的です。そのあとは、歌手の名人でなければ、歌手の名人でなければ、歌手の名人でなければ